

3. 情報通信基盤の考え方

コミュニケーションを促進するためのWeb等の活用

コミュニティポータルサイト

公共端末を可能な限り多くの公共施設や民間の施設に設置しても、利用できるサービスや情報が限られていては、市民や事業者の皆さんが必要な時に必要な情報を入手できません。そのため、ハードの整備に合わせソフト面でも充実を図る必要があります。そのため、市内のあらゆる情報が入手できる地域の入り口となるコミュニティポータルサイトの開設を検討する必要があります。このコミュニティポータルサイトでは、西東京市に関わる官民の情報を分け隔てなく提供するとともに、そのコンテンツは生活シーンに沿った編集を行うことにより、市民・事業者の皆さんが利用しやすく役に立つサイトを目指すものです。しかし、民間情報を含めたこのようなサイトを行政が単独で構築し運用することは困難な面もあるため、一部の市が取り組んでいる第三セクターの活用についても検討する必要があります。

公共端末

また、公共端末は、公共施設のほかに市民が多く集まる駅や大規模商業施設等への設置についても検討する必要がありますが、既に一部の市においても活用され、地域情報の提供にも意欲を持っている、コンビニエンスストアとの連携も視野に入れる必要があります。

コミュニティICカード

さらに、基本コンセプトである「こころポリシティ・西東京」を実現し、市民の利便性の向上と地域産業の振興に寄与するためのコミュニティICカードの発行についても検討する必要があります。利用できるサービスについては、行政サービスだけでなく、個人情報保護とセキュリティ対策に留意したうえで、民間サービスとの連携を検討する必要があります。

市民実態調査(アンケートより)

- ・ 集会場・図書館・ホールなど公共の場や駅やデパートなどに、公衆電話BOXの様にだれでも簡単に操作できる情報機器であるとうれしい。
- ・ 自分はインターネットを使用しないので、市の生活情報が、例えば駅や大型のスーパー的なところにあると、ありがたいと思います。
- ・ 市内にある駅・病院・図書館・保育園・学校等で、生活情報や市のサービスを知ることができる。メディアを活用できると良いと思う。

多様なメディアの特長を活かした連携

本市は、現在のところ市報という紙媒体を核として市の情報発信を行っていますが、ホームページの活用についても力を入れつつあります。また、前述のとおり、本市には、災害情報に強いと考えられるコミュニティFM放送や市のイベント等の結果を映像・音で効果的に伝えることができるCATVも存在しています。また、無線によるネットワークの核施設と位置づけられるマルチメディアタワーも立地しており、多くのメディアを活用する素地は整っています。

したがって、それぞれのメディアの特長を活かしつつ、地域の情報を効果的に伝達するチャンネルを増やすことが必要です。

具体的には、市報と前項で述べたコミュニティポータルサイトを基幹メディアと位置づけ、市がめざす

- ・ 安心して健やかに暮らせるまち
- ・ 楽しく豊かなまち
- ・ うるおいのある元気なまち
- ・ 便利で快適なまち

を実現するために、各メディア間の連携を積極的に検討するものとします。

情報の流通は、発信する側、利用する側があらゆるメディアを活用して初めて活性化します。これらの連携を図ることで、市民の皆さんがいつでも必要に応じた情報を伝え、入手することが可能になると考えます。

市民実態調査(アンケートより)

- ・ 自宅に配付される市報等だけはよく見ます。それ以外に市の行政サービスの伝達手段に何があるのかよくわかりません。
- ・ 市で行うイベントなど、市民が身近に感じることができるアピールをしてほしい。掲示板やホームページ、市報など、うまく活用して市民の目にとまるようにしてほしい。
- ・ 市報・HP等の媒体に依存しない情報発信機能にも力を入れていただきたい。
- ・ 携帯のサイトで情報を見られるようにしてほしい。
- ・ 地域の電話会社等と協力し、密着した情報提供を考えて欲しい。駅を利用するのも手だと思います。
- ・ おとしりの中にはラジオをきいている人も多いと思うので、ホームページ上の内容を定期的にラジオで言うのも有効ではないかと考える。
- ・ 情報化というと、ウェブページによる情報提供の充実ばかりに力を入れる傾向があるが、市報等、既存のメディアは自宅に居るだけで入手できる上、一覧性・記録性・携帯性・家族での回覧性・保存性に優れており、こういった良質なメディアの充実にも配慮してほしい。